

A 型解離の形態や治療内容が偽腔の血流やリモデリングに与える影響に関する検討

1. 研究の対象

2012 年 1 月～2024 年 12 月に当院にて急性大動脈解離 Stanford A 型に対して手術加療緒を受けられた方

2. 研究目的・方法

Stanford A 型大動脈解離は致死率の高い疾患であり、原則として手術加療が必要となる。解離が末梢まで及び偽腔が残存する症例においては、その後解離性大動脈瘤に対する追加治療が必要となることがある。本研究は、解離の形態や手術の方法が偽腔の血流もしくは大動脈のリモデリングに与える影響検討することを目的としています。

Stanford A 型大動脈解離：大動脈解離の中で上行大動脈に病変が及んでいる形態

リモデリング：解離によって生じた偽腔が縮小していく過程

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：A 型解離発症時の形態、血管径、発症後の治療内容、手術介入の有無、性別、内服薬、手術前後の CT データ、手術介入例における術後合併症の有無、再手術の有無、再手術の内容等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて病客さまもしくは病客さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも病客さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

心臓病センター榊原病院

住所：岡山市北区中井町 2-5-1

電話：086-225-7111

研究責任者：心臓血管外科 平岡 有努

担当者：心臓血管外科 池田 諒